

福岡市に生息するほ乳類・は虫類・両生類



山地で見られる動物



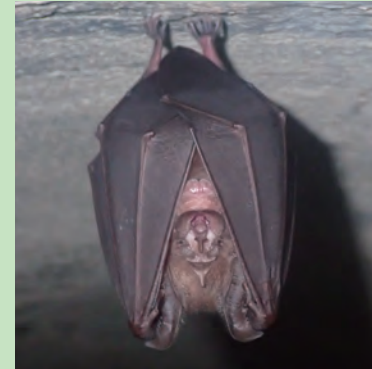
ブチサンショウウオ

山の中の川の源流部付近にだけ見られる小さなサンショウウオ。お腹の白いぶち模様が特徴。



ヒメネズミ

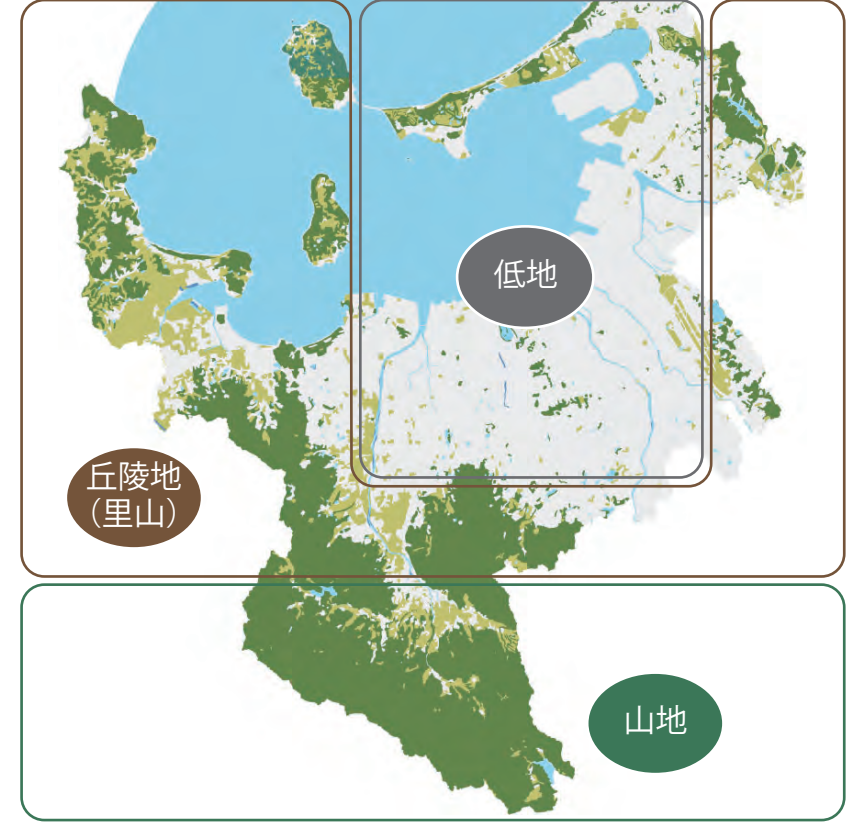
森の中に棲む小さなネズミ。木に登るのがとても得意で、木に開いた穴などを巣として利用します。



キクガシラコウモリ

明るい時は洞窟で眠り、夜になると森の中を飛び回るコウモリの仲間。天井にぶら下がって寝ます。

令和4年度の調査では22種のほ乳類、14種のは虫類、14種の両生類が確認されました。



タゴガエル

山の中にある小さなカエル。春先には沢の石の下で「グッ、グッ」と鳴きます。



トノサマガエル

10cmほどの大きなカエル。田んぼを代表するカエルでしたが、最近では減ってきています。



イノシ

畑や田んぼを荒らす問題児。いつもは山の中でタケノコやドングリなどを食べて暮らしています。



キツネ

赤褐色の背中とフサフサの長い尾が特徴のイヌによく似た動物。森の中でネズミや鳥などを食べています。



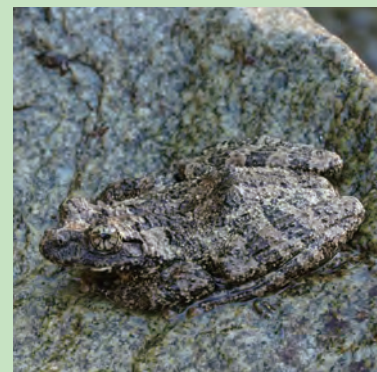
ニホンイシガメ

甲羅の後ろがギザギザの黄褐色のカメ。日本を代表するカメですが、最近では減ってきています。



カスミサンショウウオ

里の水辺で暮らす小さなサンショウウオ。尾のまわりが黄色いことが特徴。1～2月に卵を産みます。



カジカガエル

溪流にいるカエル。春には「フィフィ…」と綺麗な声で鳴きます。石の色と似ていて見つけにくい。



アカハライモリ

お腹が赤くて「アカハラ」と呼ばれることも。皮膚から毒を出すのでさわった後は手を洗いましょう。



シロマダラ

夜行性で見つかる機会が少ないので「幻のヘビ」と言われますが、意外と身近な場所にもいます。



危

ニホンマムシ

毒ヘビの代表種。円が交互に2列並んだ模様が特徴的な危険なヘビ。卵ではなく子どもを産みます。



ニホンアカガエル

里の水辺にいるオレンジ色のカエル。1月ごろにタピオカのような卵を産みます。

山地から里山までの広い範囲で見られる動物

博多区や東区、糸島半島に見られる丘陵地では、森や果樹園、畑などが入り組んだ里山環境が見られます。こうした里山環境ではニホンイシガメやカスミサンショウウオ、ニホンアカガエルなど、山地とは少し違った動物も見られます。

里山で見られる動物



福岡市に生息するほ乳類・は虫類・両生類



低地で見られる動物

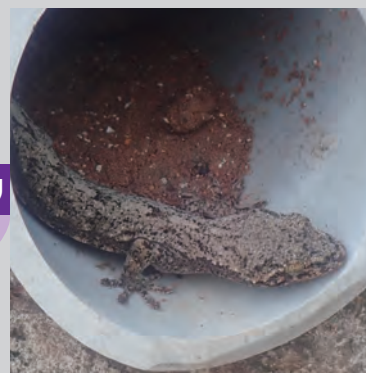


市街地やその周辺を流れる河川、畑・田んぼにも沢山の動物がいます。河川や田んぼのまわりには多くのカエルやヘビなどが暮らし、ニホンヤモリやアブラコウモリは家に住み着いて暮らしています。私たちのすぐ近くで、たくましく生きる動物をぜひ探してみてください。

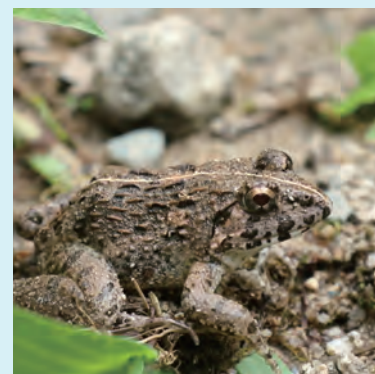
< 市街地でも見られる動物 >

ニホンヤモリ

家に住み着いて守ってくれる「家守」。クモやガなどの虫を食べてくれます。足の裏の細かい毛を使って天井や壁に張り付きます。



< 畑や田んぼで見られる動物 >



ヌマガエル

背中にイボイボがある茶色いカエル。高温にも強く、市街地や海岸近くの小さな水たまり近くでも見られます。



ニホンアマガエル

身近なカエルの代表種。緑の体と目の前後に伸びる茶色の線が特徴。実は皮膚から弱い毒を出すので、さわった後は手を洗いましょう。



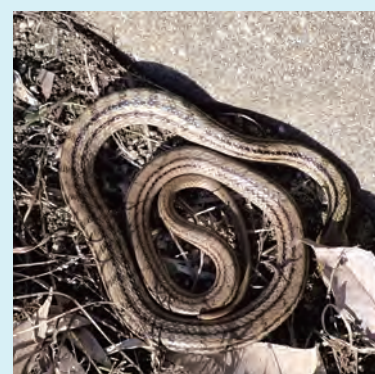
アオダイショウ

ネズミや鳥を食べる大型のヘビ。2m近くになることもあります。小さい時はクリーム色の体に斑紋があり、よくマムシと間違えられます。



アブラコウモリ

夕方から夜の時間に街中を飛び回るコウモリの仲間。カなどの虫を沢山食べてくれます。明るい時間は家の隙間に潜って休んでいます。



シマヘビ

シマ模様を持つヘビ。小さなときは横しま、大きくなると縦しまに変わります。頭を上にしたときに縦方向になるのが縦しま。



ニホンカナヘビ

草むらや林で見られる小さなトカゲの仲間。尾が長く、細長い体型と褐色でガサガサの体の特徴。日当たりの良い場所でよく日向ぼっこをしています。



コウベモグラ (塚)

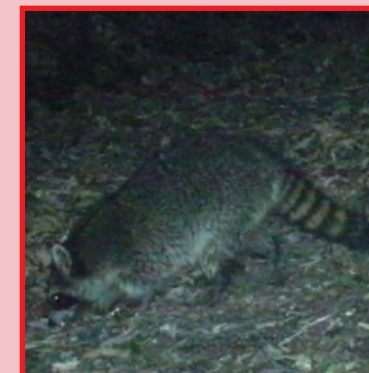
地面の下にトンネルを掘り、生活しているモグラ。外に出てくることはほとんどなく、トンネルを掘った時の土だけを外にかき出したのが「塚」と呼ばれます。



カヤネズミ (巣)

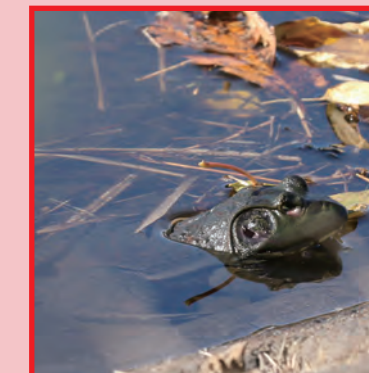
草むらの中で草を編んだ丸い巣を作って暮らしています。とても小さく、体が軽いネズミで、草の上を自由に動き回ります。

外来種



アライグマ

元々は北アメリカにいた動物。シマシマ模様の尾が特徴。家に入り込んだり、作物を荒らしたり、他の動物を襲ったり、さまざまな悪影響がことから、特定外来生物に指定されています。福岡市内でも急増し、被害が出ています。



ウシガエル

「ブォーン、ブォーン」と牛のような大きな声で鳴きます。食用にするためにアメリカから連れてこられた大きなカエルで、「食用ガエル」とも呼ばれます。大きな口で水辺の生きものを何でも食べてしまいます。特定外来生物に指定されています。



ミシシippアカミミガメ

目の後ろに赤い線が入るのが特徴。小さい時は全身が緑色で「ミドリガメ」として売られています。日本のカメを追いやったり、水草を食べてしまったりします。令和5年6月から「条件付特定外来生物」として販売や野外に放すことが禁止されます。

令和5年6月から

ミシシippアカミミガメを 野外に放すことが禁止されます！

ミシシippアカミミガメは小さな時は可愛く、飼育しやすい動物ですが、大きく成長すると狂暴で、また非常に長生きすることから、野外に逃がしたり、逃げ出したりして、今では福岡市内の川や池で多くの野生個体を見かけます。このミシシippアカミミガメが令和5年6月から「特定外来生物」として、販売や野外に放すことが禁止されます。ただし、他の特定外来生物とは異なり、飼育している人も多いことから、「条件付特定外来生物」として現在飼育している個体を飼育し続けることや、飼うことが難しくなった場合は、他の人に無償で譲ることもできます。飼育している個体を野外に逃がしてしまうと、昔から日本にいるカメや他の動物・植物に悪い影響が出ますので、飼育している場合は、最後まで責任を持って飼育しましょう。飼育が難しい時は、飼育できる人に渡しましょう。

特定外来生物

人の手によって、国外などから元々いなかった場所へ持ち込まれた生きものを外来種と呼びます。その中でも人の生活や自然界に非常に悪い影響を与える生きものは『特定外来生物』として法律で指定され、飼育や販売、野外への放出などが禁止されています。特定外来生物が侵入してしまうと、長い時間をかけて作り出された日本独自の自然が、簡単に壊れてしまいます。私たちの生活を守るためにも、野外に逃がしたりしないようにしましょう。

外来種を
＜ 外来種被害防止 3 原則 ＞
入れない！ 捨てない！ 拡げない！